令和6年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
88	川崎市立登戸小学校	棟居 謙

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
・自主的創造的に考える子どもを育てる ・人間性に満ちた、心豊かな子どもを育てる ・健康で、明るく、たくましい子どもを育てる ・強い意志を持ち、最後までやりぬく子どもを育てる	○育成すべき資質・能力 「自ら学ぶ力」「人間関係形成力」「自立的活動力」 ・自主 主体的に考える子どもの育成 （授業の充実） ・協働 共に支え合う子どもの育成 （心の教育の充実） ・自立 自分から気づき考え行動する子どもの育成 （実践的活動の充実）

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	①基礎・基本の確実な習得と活用する力・互いに高めあう子どもの育成	・全ての教科を通して学ぼうという意欲を高め、「わかる」「できる」「楽しい」を実感し、共に学び合う子供を育てた。 ・習ったことを生かし、意欲をもって学べるよう導入を工夫します。また 具体物やノートを活用し考えを整理したり振り返りをしたりして次の学習につなげた。 ・朝の短時間学習等を通して、基礎基本的な問題に繰り返し取り組み、知識理解の定着につなげた。 また、学習状況調査の結果等を参考にして各学年の実態に合った取り組みをした。	・発達段階や学習経験に応じて、ギガ端末を活用しながら、友だちの考えを知ったり、自分の考えを伝えたりする活動を充実させることで、「友だちから学ぶ」ことの価値や「友だちと学ぶ」楽しさを実感することがでた。	・学習状況調査結果を分析し、集団及び個人としての課題や現状を教師が把握した上で日々の授業づくりを行い、学習指導や支援に活かしていく。 ・ギガ端末のさらなる有効的な活用法の模索及び実践や、教師発信の学習活動だけではなく、子ども自身が学び方を考えて学習したり、振り返ったりできる場や時間を確保する。 ・短時間学習の総時間を算出し、教科時数との割合を全職員で再確認し、特色ある有効な時間になるよう意識し、計画を新に立てる。
2	②個に合わせた支援の充実	・少人数指導（35人以下学級編成）、教育サポーターによる支援を行った。 ・英語、算数、音楽、書写、体育においては専科的な役割を担う教員を配置し指導の充実を図った。 ・算数では4年生では少人数指導、3年生では入り込みの指導を取り入れた。 ・専科指導では、その教科を専門とした教員が指導を行いました。子ども達の学習の理解度を上げたり、複数の教員の目で 指導・支援したりすることに取り組んfだ。	・算数では、4年生は少人数、3年生は入り込み支援で学習することで、教師の指導が行き届きやすく、定着度が上がった。 ・専科を取り入れることで、教科指導力が上がる他、複数の教員で児童を指導・支援することができた。児童理解の面でも効果的だった。	・中高学年においては、交換授業により教科担任に近い環境を整え、教科指導力を高め、多くの目で判断した児童理解による指導を進める。 ・入り込み支援や取り出し支援など、様々な方法を使って個々の理解度が高まるようにする。
3	③防災教育の充実	・避難訓練・防犯訓練の想定ややり方を工夫したり、自分の身を守るための指導を行ったりした。 ・様々な状況に対応した避難訓練（火災、地震、洪水、不審者対応）を年間6回実施。 ・冬休み前に、家庭で防災について話し合えるように、非常時の備えや家庭で必要な確認項目についての授業を実施。 ・児童用非常袋の学校での保管を開始。（1月より）	・訓練を通して、避難時の基本的な行動を身につけることができた。 ・児童の防火理解が深まるよう避難後に消火器の使い方について実演するなど知識理解を高める工夫をした。 ・有事の際、待機児童の食糧の確保として、児童非常用袋を用意した。同時に各家庭で準備することで防災教育につなげることができた。	・実施時間を固定せずに行うことや、想定外の状況を設定することで、より実践的な訓練の計画を立て、実施する。 ・年度のはじめに引き取り訓練を行うことで、不測の事態に全校職員、1年生児童および保護者が備えられるようにする。（4月引き取り訓練） ◎有事を想定した訓練や保護者や地域ともに備える力を高める。総合防災訓練や避難所開設訓練への積極的な参加を呼び掛ける。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
4	④情報教育の充実	・一人一台タブレットPCを利用して、機器の端末操作方法を系統的に指導し、適切に活用できる力と態度を育成した。 ・発達の段階に合わせて系統的に情報モラル教育を進め「適切なコミュニケーション」の力を育てた。 ・保護者と共に学び、日常に生きる情報モラル教育を工夫し実践した。 ・端末を活用して調べたり、発表したりする場面を教科や学年を横断して行った。 ・インターネットを活用することでどのような危険があるか考える授業を行いました。授業参観で授業を行い、ご家庭で考えてもらう場面を設定した。	・ギガ端末を効果的に活用できていると児童が多くなってきている。 ・ギガ端末を活用することで、自ら学習を進める力がついてきていると感じている。 ・ギガ端末の活用方法やその目的について子どもの捉えと、教員や保護者などの大人の捉えに差がある。	・年間を通した情報モラル教育の推進と保護者も参加する授業の提供する。（予算編成済み） ・各学年に応じたギガ端末活用方法を考え、更に推進する。 ・端末を活用した授業の実践を発表し合う職員研修の実施し、端末を学習ツールとして使用できるようにする。
5	⑤健康教育・運動する子ども	・日々の体育授業や養護教諭・学校栄養士による健康に関する授業や日常的な衛生管理への意識を高めるなど、健康や体力に関心をもつ子供を育てた。 ・特別活動の時間に、担任と協力し、養護教諭・学校栄養士が健康や栄養について授業を行った。授業内で自分の目標をたて、家庭での実践を通して、より良い生活習慣の定着図った。 ・今年度より、休み時間や体育の授業の中で、縄跳びやフラフープなどの種目に取り組み、日常的に運動する習慣を身につけられるようにした。運動が苦手な児童も取り組めるように体育委員が中心となって工夫した。	・キラキラチャレンジや特別活動の時間に、担任と協力し、養護教諭・学校栄養士が健康や栄養について授業を行ったことにより、よくできている、できているを合わせると97.1％と多くの児童が回答していることは大きな成果と言える。 ・児童の結果と比べて、保護者の「よくできている」の割合が少ないため、増やしていきたい。	・専門家の指導による健康教育の推進と、保護者への授業公開で家庭へ発信していく。 ・食事・運動・睡眠が子どもの成長に及ぼす効果を4～6年生を中心に特別な学習を進めていく。 ・運動と心の関係について有識者による研修を行うのと同時に、学校運営協議会メンバーに招聘し、学校運営の軸として活躍していただく。
6	⑥命の重さや価値を実感し、思いやりの気持ちをもつ	・年間の教育活動を通して、自分も相手も大切にできるように努めてた。す。(人権週間、子どもの権利学習、SOSの出し方・受け止め方教育、行事など) ・ひまわり級と1年生の交流会を行い、遊びながらお互いを知り、仲良くなった。 ・人権週間には共生＊共育や道徳、夏休み前にはSOSの出し方・受け止め方教育を行い、命の大切さや思いやりについて考える学習を積み重ねた。また、子どもの権利学習において、自分たちに必要な権利についても話し合い、理解を深めた。	・日々の教育活動全般で、命の重さや思いやりについて考える機会を積み重ねてきた。その結果、アンケートでは児童と教職員の意識は高いといえる。 ・3年生では人権出前授業を依頼し、かわさき子ども人権条例について学ぶことができた。	・保護者のアンケート結果と児童・教職員のアンケート結果に開きがある。保護者に学習や学校での様子が伝わっていないと考えられるので、授業公開やホー　ムページでさらに発信していく必要がある。 ・かわさき子ども人権条例の授業を単発ではなく継続的に行って理解を深め、児童の人権意識を高める。 ・学習したことが行動化できるような取り組みを考えていきたい。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
7	共生・共育の実施、コミュニケーション力の育成、いじめを許さない学校風土	・各学年7時間の「共生＊共育プログラム」を行い、社会性のスキルの習得に努めた。 ・「学校生活アンケート」を実施し、一人一人の思いをくみとることで、いじめの防止に努めた。 ・教職員はいじめ防止委員会を計画的に開催し、教職員で課題を共有しながら、いじめ防止・問題解決に努めた。 ・支援教育コーディネーターを中心に子供の心に寄り添ったチーム支援行った。 ・「かわさき共生＊共育プログラム（年7回）」は自分づくり・友達づくり・仲間づくりをプログラムの柱とし、学年や時期、諸問題に応じて指導計画を基にして実践した。 ・「学校アンケート（年3回）」は、子ども達の学校生活の実態を把握し、きめ細かな対応や支援をするために行った。 ・学校ホームページに掲載されている「いじめ防止基本方針」をもとに、全職員が「いじめや暴力は絶対に許さない」という気持ちをもち、毅然とした態度で指導に臨んでいる。 ・学校生活全般の悩み事に、担任・学年主任・支援教育コーディネーター・養護教諭など、子ども達が楽しく学校生活が送れるように様々な角度から支援している。 心を落ち着かせて話ができる「ほっとルーム」という部屋を設置している。	・いじめに対して、道徳の授業や児童会からの発信で意識をもって取り組むことができていた。 ・いじめに関する事案発生の際は、すぐにケース会議を招集し事態の解決に努めることができた。また、全校児童にも呼びかけるなど、具体的に働きかけた。 ・共生＊共育プログラムの取り組みを定期的に行うことにより、社会性のスキルを身につけることができている。	・共生共育やいじめ防止に関する取り組みなど、保護者への周知がなかなか進んでいないことがアンケートから見えてきたので、学校ホームページを活用して、児童の活動の発信をしていきたい。 ・関係機関の協力を得て、積極的な取り組みを進めていく。（多摩警察署による授業を計画中） ・年3回「学校生活アンケート」を実施し、一人一人の思いをくみとり、即時チーム対応を行う。 ・ほっとルームがさらに活用されるよう、取り出し教育などの場としても活用していく。
8	皆が気持ちよく過ごせるための規範意識の育成	・児童会活動を中心に、子供たち自身が気持ちよく過ごすことができる学校生活のルール作りについて考える機会を設けた。 ・生活目標を通して、規範意識の育成に努めた。 ・運営委員会では、「学校をよくしようポスト」を設置したところ、児童から「階段で右側を歩いている人が少ない」という声が寄せられ。そこで、階段の歩行について自分たちで働きかけを行いました。自作の色分けカードを使い、右側通行が意識付けられるように工夫した。 ・朝会で生活目標について全校で確認する機会をつくった。児童が考えを発表する場面もあり、自分たちでよりよい生活をつくっていこうとする思いを育成している。	・多くの児童、保護者、教職員が、児童が皆が気持ちよく過ごすことができるような学校のルールについて考えることができていると捉えている。 ・児童が学校生活のルールや生活目標について考える機会を作ることは規範意識を高めるうえで有効であると感じている。	・児童自らが学校生活について改善できるようにするために生活目標に対して、自分やクラスがどのように取り組めたのかを振り返る機会を設ける。 ・振り返りの際に、次はどうしたいのかまで考えるように促す。 ・必要に応じて生活目標やルールを確認する。 ・取り組みについて保護者・地域により伝えられるように学校ホームページで紹介するなどして理解を広げる。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
9	主体的に取組む気持ち、自己有用感の育成	・委員会活動・クラブ活動、係活動その他の活動において、子供たちの発想や意欲を生かした活動に取組み、自分たちで楽しい学校をつくれるように指導した。 ・運動会や日常の児童会活動など児童の発想から活動が進められるようにした。 ・行事を通して協働し、連帯感・達成感を味わわせた。	・年度当初に教員が意識を変える必要について共通理解できたことで、新しい取り組みが生まれた。 ・委員会活動を主として、子供たちの「やってみたい」「やってみよう」を大切にした主体的な活動をすることができたので、児童の有能感が向上している。	・学校行事や特別活動では、児童が考え計画し実行する機会を多くもてるようにする。また、低学年においても選択し判断するような機会を増やし、その活動結果を価値づけする。 ・保護者に子供の取り組みの様子を知ってもらえるよう、ホームページ等を活用して情報を発信する。そのことから、保護者・地域住民も自己表現の場として学校を活用する機運を高め、児童のあこがれとしていく。 ・ 高学年だけでなく、全校的な主体的活動にするために、代表委員会を子供たちの夢を叶える場として活用する。
10	危機管理・施設の整備	・心肺蘇生法・AEDやアレルギー研修、学校安全マニュアルを活用した。 ・日頃の感染防止対策の徹底、教職員による清掃および消毒作業、子供の作品や学習に活かせる掲示物の工夫などを行い、清潔な空間を心がけた。 ・地域の安全見守り、避難所運営会議、PTAと連携し児童の安全確保をはかった。 ・感染予防教育や交通安全教育、薬物乱用防止教育等を実践し、安全に対する意識向上を目指した。 ・教育委員会、地域、保護者と協働し、学校施設設備環境の改善に努めた。 ・定期的に薬剤師の点検を受けながら、教室の照度・二酸化炭素濃度・水道の水質等を保つよう努めた。 ・外部講師を招いての学習では、臨場感をもって話をしていただいた。	・学校安全マニュアルに基づき、給食指導研修・エピペン研修・心肺蘇生法研修・防犯研修等各種研修を滞りなく進めたことで、職員の危機管理意識を高め、児童に指導することができた。 ・草取りボランティア等、校内環境整備に関心をもち、ご協力いただける方と出会い、校内美化につながった。 ・地域の安全見守り活動に参加されいる方を、学校に招き、児童の登校状況について意見交換をすることができた。しかし、高齢化が進みお手伝いいただける方が減少していることも把握できた。	・安全管理について、コミュニティスクール委員と協働するような学校運営の実現に努める。 ・防犯・安全や校内植栽環境整備など地域住民やボランティアを広く募り取り組む。（学校運営協議会委員として招聘する） ・講師を招いた安全教室（感染予防教育・交通安全教育・薬物乱用防止教育・情報モラル教育等）について、保護者にも周知し、学校と保護者が連携して指導にあたれるようにする。 ・増築校舎設営に伴う環境の変化に対応するため、安全・安心に教育活動が進められるよう、カリキュラムの調整や場の設定を工夫していく。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
11	地域に愛着をもてるような教育活動	・生活科・総合的な学習の時間・社会科の学習、行事等で地域の「人・もの・こと」との出会いやふれあいを通して地域を愛する気持ち、感謝の気持ちを育てた。 ・目的をもって地域に出かけ、地域のよさを実感する活動を取り入れた。 ・積極的に地域教育資源を開発し、地域と連携した授業開発を進めた。 ・5年生の総合的な学習の時間では、環境について学習しているため、川崎100周年緑化フェアに参加し、花を植えたりプランターを作ったりして登戸の環境をよくする活動をした。 4年生の総合的な学習では福祉学習「みんなにやさしいまちづくり」の単元で「やさしさ日本代表をめざそう！」を合言葉にボッチャを通してたくさんの人とつながろうとした。地域の「福祉フェス」にも有志の児童が参加することができた。	・生活科や総合的な時間の学習では、自分たちをとりまく環境や社会から生まれた。児童から生まれた課題に対して主体的に学習を進めたり、体験活動を通して自分自身　がどのように関わるとよいかを考えたりできるようになってきた。 ・1年生では学校探検、2年生では町探検、3年生では登戸の自然と国際理解、　4年生では　福祉学習、5年生では環境学習、6年生ではキャリア教育と歴史あ　る登戸の街の人と共に　学びを深めるカリキュラムとなっている。 ・探究的な学びをスパイラル的に行うことで、人との関わり方や地域を愛す　る気持ち、感謝の気持ちが育っている。	・生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの抜本的な見直しを今年度中に行う。学びのゴールを明確にし、どの学年も地域に発信したりかかわったりすることで、自己実現や自己有用感が高まるような取り組みとする。 ・地域企業や専門家、行政を入れた学習活動の開発する。登戸ミーティングや多摩100人会議などで活躍されている方とつながり、児童の活動の幅を広げるように努める。 ・学校運営協議会委員にも、地域活動にかかわっている方を招聘しアドバイザーとして活躍していただく。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
12	学校評価を生かした教育の改善・情報発信	・学校便り・学年便りにおいて教育方針や児童の様子を保護者・地域の方々にお知らせしたり、随時ホームページを更新したりした。 ・保護者向けの手紙、調査結果等メールによる配付をします。紙文書の削減のために、ミマモルメやホームページによる文書配付を進めた。 ・学校運営協議会でのご意見や保護者アンケートを学校改善に役立てる道筋を立てた。 ・日程（学校の行事・学年の主な行事など）、詳しいお知らせ（個人面談・学校公開日など）、学校生活上のお願い　や注意点（冬季の防寒着・通学中の様子など）は「学校だより」にまとめた。一つにまとめることで、保護者に分かりやすく正確に情報が伝わる様に努めた。 ・ボランティアの募集や希望調査などは「ミマモルメ」を、学校・学年からの様々なお知らせは「学校Webページ」を活用した。データ化を進めることで、保護者の方に迅速で簡単に手続きや情報確認ができる様に努めた。 ・地域の行事に参加した様子、幼稚園・保育園・中学校との交流の様子など「学校だより」や「学校Webページ」　を使って毎月お知らせした。様々な連携の仕方を実践し、継続可能な地域との連携の仕方を考えた。	・「学校Webページ」や「ミマモルメ」を活用して情報を発信する方法は、肯定的な結果や意見が多く、効果的であった。ひと月平均1万回アクセスがある。 ・ミマモルメで、アンケートの締め切りや提出物の回収等、期限が近づいていることの「呼び　かけ」が好評だった。 ・紙でも欲しい、もう少し先の月予定が欲しい、学校の様子を知る機会を充実してほしい、等の要望にもできるかぎり答えた。	・情報の提供速度を上げる。また、内容はさらに充実させていく。 ・「学校だより」は紙でも準備して職員室前に設置します。必要なご家庭は、児童を通して持ち帰り、活用してもらう。 ・月予定は2ヶ月先まで学校だよりに掲載するようにした。。最新情報は該当月の予定表で最終確認してもらう。 ・授業参観や学校公開日、学校行事、個人面談等、参加し易くなる様に適切な時期を考慮して、配置する。 ・配信内容や配信の手段など保護者の中にある人材を発掘し、支援をいただく。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
学校関係者の評価		学校運営のまとめ	
○学習について ・自分たちの知る教育から大きく様変わりしていることが分かった。TT指導など学力差が大きく生まれてくる中学年において効果的に行われていることを評価している。 ・学年担任制や教科担任制の仕組みについて理解できた、現実化できれば教員の負担も軽減されると思う。また、教材研究が深まることで指導力が向上するのであればぜひ取り組んでほしい。 ○児童支援について、 ・いじめや人権といった課題に対して真摯に取り組んでほしい。 ・児童の成長にかかる諸問題について、保護者も学ぶ機会があるのがよいとおもう。 ・5年間にわたる増築工事の栄養がでないよう健康問題には取り組んでほしい。 ○環境について ・植栽管理など地域の力を借りて進めることができるのではないかと思う。 ○コミュニティスクールについて ・学校職員の大変さも理解できた、地域で力になれることは声をかけてほしい。		○学力向上、学習の定着 川崎市学力状況調査をもとにした学力分析の経験を生かし、年間も通して目指す子供像に向けた手立ておこなう。また、交換授業を中心とした教科担任制を進め、学習指導の均一化に努める。高学年においては専科教員を増員し専門的な指導の充実をはかる。何よりも「わかる」「できる」「楽しい」を大切にした学習活動を目指す。 ○安心して過ごすための児童支援 支援教育コーディネーターを中心に、児童の心の安定が図れるよう年3回の生活アンケートやいじめ防止プロジェクトに取り組む。ほっとルームでは、非常勤講師による学習支援を行い。安心してクラスで授業に取り組めるようにする。保護者と共に子供の心身の成長に関する研修を行う。特に来年度増築工事に伴う、校庭の縮小から運動不足による発達の遅れとならないように、重点課題として取り組みを進めていく。 ○施設の老朽化に伴う対策 令和7年度着工となる増築工事だが、その他施設設備の老朽化による修繕箇所は日に日に増えている。修繕費はすぐに底をついてしまう。教育環境整備推進室への依頼はなかなか実現しないので、別建てて材料費など供出していただきたい。区内の優秀な技術をもった用務員チームに依頼し各校の修繕にあたるのはどうかと思う。 コミュニティスクールとしての意見書を提出する予定。 ○コミュニティスクールとしての取組 学力・安全・環境・デジタルの4つの分野における担い手を確保したい。学校報告会では、登戸ブランドという言葉を加え、わくわくする学校から生まれる郷土愛や学校自慢の心情を高めていく。そのためにも地域全体でこの学校を運営することを目指す。今後、環境ボランティアが確保できれば、緑化フェアに向けた取り組みを大きく後押ししてくれることと期待している。	